

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第6回運営委員会 開催日：1月24日。出席者：荒木委員長，他12名。

会議事項

1. 依論文賞候補論文および選考小委員会設置について

各候補論文を各専門家に審査していただき，その結果に基づいて決めることになった。

採点法は10点法とする。

提出の候補論文の一覧表に基づき審査小委員を選定した。

第1回運営委員会 開催日：3月21日。出席者：荒木委員長，他13名。

会議事項

1. 外国会員会費について

外国会員会費と国内会員会費との関係を再検討することになり，企画委員会で検討願うことになった。

2. 支部講演の概要集掲載について

各支部講演が増え，概要集掲載希望が強くなってきたので authorize する方法，基準など実際問題を次回検討することになった。

第1回和文会誌分科会 開催日：3月14日。出席者：荒木主査，他12名。

会議事項

1. 論文審査報告

10件の報告があり内訳は次のとおりである。掲載可…6件，校閲後可…1件，修正依頼，または問合わせ中…3件

2. 「鉄鋼便覧」目次について

2, 3の意見を検討したが，次回さらに討議することとなった。

3. 「鉄と鋼」総索引について

索引は毎年作成しているので10年間のを作つてもそれほど活用できないとの意見がほとんどで，再検討することとなった。

4. 資料委員会より会誌への記事掲載依頼について

鉄鋼協会の資料室の現状と将来のあり方について「資料室だより」とは別に掲載依頼があり承認された。volumeは「鉄と鋼」4～5頁程度。

第1回講演大会分科会 開催日：3月26日。出席者：草川主査，他11名。

会議事項

1. 第76回講演大会講演申込締切について

原稿査読，プログラム編成，印刷などを考慮に入れ原稿ともて7月20日（土）と決定した。

2. 「鉄鋼便覧」目次について

「鉄鋼便覧」の内容は，材料とは別に鉄鋼製造だけに重点をおいたらどうか，またもつと基本的なデータを入れたらどうかなどの意見が出たが，結局は便覧そのもの

の内容や対象者などもつと基本的なものを決定してから目次は検討すべきであるということになり次回さらに討議することとなった。

3. 講演大会運営組織について

鉄鋼協会全体の組織を系統だててからでないかと講演大会運営組織を討議しても仕方ないということになり次回討議を重ねることとなった。

第1回欧文会誌分科会 開催日：3月18日。出席者：橋口主査，他16名。

会議事項

1. 8件の論文について審査報告がなされた。

2. Research Notes を掲載する場合には，synopsisやその他の区分を除くほかは Research Article と同じ体裁にすることが決められた。また Research Notes と Research Article の違いについて議論された。結果は，RNもRAも客観的価値判断の基準は変わらないが，RNは速報性が必要であり，また長さに限度が決められている。

3. 現在の鉄鋼協会の会費は国内と国外で差がありすぎるので，内外の会費を近似にするように企画委員会にかけることになった。

4. ドイツ，フランスの研究所，学会の区別がなされた。米英独仏以外の国々の不明な団体についてはすべてB扱い（購読されない場合発送中止）とすることに決まった。

資料委員会

第1回委員会 開催日：3月15日。出席者：草川委員長，他9名。

会議事項

1. “新着図書”案内について前回図書，資料との2項目に分類して掲載することになったが，今回新たに①図書②雑誌③資料（協会内外）④規格というように4項目に分類して掲載することにした。

2. 図書購入について

規格については DIN のプレス加工，線材加工部門を，便覧については，建築，土木，化学（基礎応用），機械，計測について追加購入することにした。

3. “協会資料室調査”アンケートについては，配付するだけで意義あるものであり，今後の企画の参考になるものでもあるので現在の形式に追加して，春の大会に配付することにした。

4. “鉄鋼に関する情報管理”と題して“鉄と鋼”に解説講義的に，世界各国の情報管理について八幡の青木氏に，執筆依頼することにした。

5. 資料室5カ年計画の一端として，他企業の資料室を見学し，実状を把握することにした。

共同研究会

鋼管部会

継目無管分科会

第2回分科会 開催日：2月26, 27日。出席者：小島主査代理，他 29 名。

会議事項

1. マンネスマン製管法におけるローリングスケジュールとセットアップについて。

管材外径と製品寸法ならびにピアサ，プラグミル，サラー，サイザーおよびレジュサーの段取りについてアンケートのまとめが報告され各社の特徴がよくわかった。

2. マンネスマンプラグミル法における内外面へげきずについて

過去の数回行なわれた共通実験および各社独自で行なった実験についてのまとめが報告され今後この問題をいかに進めるかについて討議した。

3. ビレットの非破壊検査と製鋼きずについて

2編の資料が提出され討議された。

4. 押出管におけるビレットのアブセット偏肉との関係

押出途中止めによりアブセットと偏肉との関係を解明するため共通実験を行なったが明らかな傾向は出なかった。

溶接鋼管分科会

第2回分科会 開催日：2月16, 17日。出席者：山田主査代理，他 32 名。

会議事項

下記3つの議題につき各社より資料が提出され，討論された。

1. 高周波溶接の代表的きずの実態，原因および対策 スライズロールのタイプおよび肉厚 / 外径の製造限界と各種溶接不良との関係，化学成分がベネトレータに及ぼす影響についてディスカッションされた。

2. 高周波溶接機の welber man の作業管理点 ストリップ形状，突合わせ形状，溶接ビードの状態を管理しているところが最も多かった。一社ではあるが，現場において溶接部メタルフローの顕微鏡観察をしているところがあり注目された。

3. サブマージドアークウエルドの溶接性
フラックスの種類，成形方式，成形角度および溶接電流，電圧，速度などについて現状の溶接条件が各社より報告があり問題点をピックアップした。

.....

鉄鋼分析部会

鋼中非金属介在物分析小委員会

第13回小委員会 開催日：2月1日。出席者：前川小委員長，他 13 名。

会議事項

1. 酸溶解法第5回共同実験結果について
討議の結果，追加実験を若干行なつてできるだけ早期にとりまとめることになった。

2. 本委員会の今後の研究方針について

各委員の意見交換を行ない次のような結論が得られ

た。

- 1) 本小委員会は今後も継続することを再確認
- 2) 共同実験のテーマの選定は各社の事情も考慮して慎重に決定する。
- 3) 酸化物系介在物の他に，炭化物硫化物および窒化物などの分離定量を望む。
- 4) 熱処理による介在物の影響調査。
- 5) 鋼種および分析限界の決定。
- 6) 標準試料の作成。

標準化委員会

鋼管分科会

第15回分科会 開催日：2月13日。出席者：桑原主査他 15 名。

会議事項

JIS ボイラ熱交換器用炭素鋼鋼管の改正に当たり専門委員会でユーザーより硬度規定の提案があり，これに対するメーカ側の意見のまとめを行なったが，

1. 硬度規定を入れず，解説に抗張力のレンジの目安を書き，今後実績を検討の次回（3年後）の改正期に抗張力のレンジを規定する。

2. 解説に硬度の目安を書く。

という2つの意見があり，結論が得られなかつたので，今回の専門委員会では主査より討論概略のみ報告することになった。

ぶりき分科会

第4回分科会 開催日：2月21日。出席者：安藤主査他 25 名。

会議事項

主査より審議の参考として前回の JIS 改訂の審議の経過ならびに第4回 ISO フィラデルフィア会議の議事録の説明があつた。「寸法許容差」は，討議の結果，（注文寸法+3.2mm） $\begin{matrix} -0 \\ +3 \end{matrix}$ mm, max.+5 mm とする意見が大多数であつた。その他，「重量および重量許容差」，「抜取試料」，「試験」，「検査」，「再試験」，「包装および表示」について審議した。

東洋製缶，北海製缶，大和製缶，八幡製鉄，富士製鉄，日本鋼管ならびに幹事にて，小委員会を構成し，第4次原案を作成することにした。

線材分科会

第2回分科会 開催日：2月20日。出席者：川端主査他 13 名。

会議事項

線材 JIS の見直し要否について

ピアノ線材 JIS 見直し要否検討の前提として，軟鋼線材，硬鋼線材，ピアノ線材3規格に関連する取引仕様の実情ならびに線材関係各社社内規格の実態などについて先にアンケートしていたが，その集約結果について，討議を行なった。

JIS 見直し要否に関する答申としては，当面は現行規格体系のままで，実情にそうよう，見直しを行なうこととし，ピアノ線材については，硬鋼線材とも関連するところが大きいので，硬鋼線材，軟鋼線材も合わせて検討することとした。

JIS 鋼材の検査通則原案分科会

第2回分科会 開催日: 2月19日. 出席者: 河田主査
他 27名.
会議事項

第1回分科会での各委員の意見をもとに小委員会で素案を作成したのでそれにもとづき審議を行なった.

主な点は

1. 適用範囲は鋼管 および 鋼線も含めたものになった.
2. 化学成分の項には, 機器分析の出現および JIS G 0321 鋼材の製品分析方法およびその 許容変動値の規格化により見直した.
3. 機械試験の 1 類, 2 類の区分は新たに, 標準供試材で機械試験を行なうものを B 類, それ以外のものを A 類とした.
4. 再試験の項は次回さらに検討することになった.

ク リ ー プ 委 員 会

クリープ試験分科会

第5回分科会 開催日: 2月14日. 出席者: 平主査,
他 30 名.
会議事項

1. 通産省補助金により実施している「高温圧力容器用耐熱材料の高温特性に関する研究」の試験実施方案の詳細が報告された.
2. クリープ破断に関する国際共通試験に関する国内の試験実施方案を検討し, 試験片の形状, 熱伝対の検定方法などを決定した.
3. アンケートの結果により第2回の共通高温引張試験の実施を決定し, 強度の歪速度依存性他の試験方法についての定性的把握を目的とする試験を行なうことが確認された.
4. ステンレス協会よりスペシメンバンク材の製造履歴および試験成績が報告された. 製造依頼の条件を十分満足する結果が得られたので受け入れが承認され, 鉄鋼協会で行なう確認試験実施方案が審議され決定した.

金材技研クリープデータ連絡分科会

第4回分科会 開催日: 2月13日. 出席者: 田中主査
他 17 名.
会議事項

来年度クリープデータシートの作成に関し, 金材技研に要望することになった 6 鋼種の確認を行なったところ Incoloy 800 は比較的新しい材料であり, 問題点が明らかでないという意見が多く, 要望鋼種からはずすことになった. 代わりに, 材料提供会社およびファブリケータが 2 社以上のものという原則から新たに S 590 を要望することになった.

その結果

A286, X45 Inconel 700, S 590 STPA 26 の 6 鋼種を要望することになった.

次回上記 6 鋼種につき, 材料の仕様および要望する試験の内容を検討することになった.

鉄鋼基礎共同研究会

第8回運営委員会 開催日: 12月18日. 出席者: 三本木委員長代理, 他 11 名.
会議事項

1. 溶鋼溶滓, 微量元素, 非金属介在物の各部会および転位論, 純鉄の各グループより42年度経過報告と, 43年度研計計画につき説明があつた.
2. 43年度基礎共同研究会予算案につき事務局より説明があり審議の結果承認された. 総額は約 423 万円である.

第8回転位論グループ 開催日: 2月5日. 出席者: 橋口世話人, 他 7 名.

会議事項

1. 42年度会計報告および43年度予算案を事務局より説明し審議の結果, 承認された.
2. 各委員の研究発表
 - (1) 橋口世話人より金属ウィスカー中の転位の電顕観察について発表があつた.
 - (2) 幸田委員より Foreman と Makin の研究の紹介および走査型電子顕微鏡についての話があつた.

新 人 会 員 氏 名

(昭和43年2月1日~29日)

正 会 員							
石川 憲雄	八幡製鉄(株)技研	西田 祚章	〃	〃	山本 二郎	〃	〃
稲富 実	〃	竹本 統	〃	戸畑	上野 忠之	〃	技研
岩本 実	〃	林 喬	〃	〃	栗原 孝雄	〃	水江
高嶋 邦秀	〃	宮蘭 利武	〃	〃	梶永 剛啓	川崎製鉄(株)	水島
森 直道	〃	市嶋 勲	八幡製鉄(株)東京	〃	谷 豪丈	〃	〃
高田 敏彦	〃	岩本 宗孝	日本鋼管(株)福山	〃	永倉 義元	〃	〃
木村 重広	〃	柴田 道康	〃	〃	中溝 砂雄	〃	〃
神原 伝	〃	瀬戸 昇造	〃	〃	阿部 英夫	〃	技研
小池 允	〃	千代延敏美	〃	〃	竹内 文彦	〃	〃
浜安 正喜	〃	坪井 勇	〃	〃	市川 秋	〃	東京
宇野 晴己	〃	向井 勝利	〃	〃	林 勝信	〃	研修所
志谷 健才	〃	宮門 悟	〃	〃	奥島 敢	(株)神戸製鋼所	神戸
		森下 昇	〃	〃	高井 昇	〃	〃

岩本 勝利 // 中研
 中川 満義 // "
 高森 修 富士製鉄(株)名古屋
 森 孝 // "
 中明 辰雄 // 室蘭
 竹内 孝 // 広畑
 老田 昭夫 住友金属工業(株)鋼管
 美坂 佳助 // 中技研
 名倉 誼侑 // "
 佐藤 智則 八幡鋼管(株)東京
 白水 汎 // "
 川上 祐彦 (株)日立製作所田浦
 西村 貞夫 // 日立
 橋本 精二 // "
 入江 稔夫 日立造船エンジニア
 リング(株)
 金子 駿介 日立造船(株)技研
 東 幸男 日本冶金工業(株)川崎
 早田 克彦 // "
 田地川 彬 理化学研究所
 中川 威雄 // "
 松本 次郎 日曹製鋼(株)
 鈴木 敬彦 大同製鋼(株)
 佐藤 重明 日立金属(株)
 熊谷 憲一 愛知製鋼(株)

野崎 雅晴 釜鉄製鋼(株)
 星野 立 日本板硝子(株)
 代田 邦雄 群馬県工業試験場
 渡辺 正一 防衛庁
 林 千廣 同和鉱業(株)
 山本 哲也 北越メタル(株)
 安武 正幸 三栄鉄工(株)
 加藤 寛美夫 共同酸素(株)
 小島 正歳 (株)昭和製作所
 牧 敏哉 三菱金属鉱業(株)
 高木 良治 日本橋梁(株)
 石渡 鷹雄 通産省工業技術院
 瓶子 勇一 三星金属工業(株)
 住田 洋 東洋火熱工業(株)
 谷田 英雄 西川伸銅工業(株)
 三浦 和三 東洋火熱工業(株)
 小泉 義明 鈴木金属工業(株)
 滝本 鶴一 広島市工芸指導所
 平山 芳郎 栃木製鋼(株)
 大重 広明 大阪大学
 菊地 千之 室蘭工業大学
 田中 雄一 "
 飯田 芳男 成蹊大学
 大内 峻 岩手大学
 大矢根守哉 京都大学

学生会員

鶴木 孝典 京都大学工学部
 森 宗義 "
 矢場田 武 "
 矢野 和彦 "
 市井 一男 関西大学工学部
 北浦 正弘 "
 陣川 尚武 "
 保田 嘉弘 "
 飯沼 勝彦 名古屋大学大学院
 工学研究科
 杉山 健 名古屋大学工学部
 鈴木 孝久 大阪大学大学院
 工学研究科
 川上 賢逸 神奈川大学第二工学部
 三木 勤 工学院大学大学院
 松林 洋 名古屋工業大学

外国会員

University Applied (England)
 Science Library
 University of Wash- (U.S.A.)
 ington Library
 Hunt Library (U.S.A.)
 Dr. Ing. Filippo (Italy)
 Chiesa
 Mr. Bernard (France)
 Trentini